

西区コミュニティ交流協議会視察研修会を開催

1 日時 平成23年3月15日(火) 8:20~17:00

2 研修会場 尾道商業会議所記念館

3 参加人数 70名

4 研修概要

- (1) 尾道市長江中町内会「まちづくり研究会」の香本 昌義 会長の講演
「住民によるまちづくりの拠点づくりとその活用」

※地域づくりは行政だけでは細かい対応ができない。地域の支え合い助け合いと、行政による人、物、支援の協働による。

① 坂の町の暮らし

(ア) 少子高齢化、(イ) 家に帰るまで3回休憩、(ウ) ゴミ収集車は道が狭く入れない(地域住民が軽トラで集め業者に渡す。)、(エ) 空き屋が多い

② まちづくり研究会を立ち上げ、まちづくりを推進

(ア) 地域住民が集い、避難場所としても利用できる集会所の確保

古い民家を地域住民の協力により再生→サロンとしても利用→高齢者が元気になった。

(イ) 坂の途中に休憩所を設置→団らんの場になった。

(ウ) 小学校と協働→児童の地域行事への参加

(エ) 住民同志の交流が広がりネットワークができた。

③ まちづくりに大切なもの

(ア) コミュニティにはマインドが大切

(イ) 情報の共有、町内会への加入率が高い

(ウ) 行事への参加者率が高い

(エ) 地域のニーズに合っている事(自己満足にならない。)

(オ) マイナスをプラスにする意気込み。

(カ) 前例がないからやる。行政を動かす位の意気込み。



上記のように、具体的な取り組みの中から、分かりやすい説明とパワーポイントにより地域住民によるまちづくりの必要性、効果、基本などを説明いただいた。

(2) 尾道市商店街連合会活性化委員会佐々木 智朗 委員長の講演
「若い世代が策定した商店街活性化計画」による地域活性化の取組

※2年前に尾道市商店街連合会会長に女性会長が誕生し、女性部会、活性化委員会の活動を見直し、先を見据えた商店街の活性化を通じた地域の活性化に取り組んだ。
※身近な計画も多く、計画策定中に商店街の協力ですでに実施出来た内容もある。
計画を策定する中で、商店街の活性化＝地域の活性化に繋がっていることが分かった。

① 商店街

(ア) 少子高齢化、(イ) 空き店舗、(ウ) 各商店街バラバラでイベント実施、
(エ) 100年を超える老店舗が今までどおりのやり方、(オ) 若手の協力が薄い

② 若手の活性化委員会で活性化計画を策定

補助金なしで、地元の素人が出来る事、出来ない事、予算を考えず案を出した。その中からハード面、ソフト面でまとめた。

(ア) 地域の現状把握→駅、平地、観光地など地域環境には恵まれておりこれを生かす。

(イ) 商店街ごとでイベントを実施→地域イベントに合わせ、まとまってイベントを実施する。

(ウ) 事業のマンネリ化→昨年度の事業報告を参考にするのではなく次世代や先を見据えて計画する。

(エ) 古い店が今まで通りのやり方で営業→女性目線を生かし、お店の紹介の地図を作製、高齢者や、子育てにやさしい商店街を目指す。



上記のように、今回の計画を策定された、経緯や策定の手順を活性化計画の冊子を基に、ポイントを分かりやすくパワーポイントにより説明いただいた。

(3) 長江中町内会の施設見学及び尾道のまちあるき
長江中町の集会所の見学。

細い坂道を歩きたどり着いた集会所で、改めて利便性の悪い中でのまちづくりの大変さ、コミュニティの大切さ実感しました。

